

単元別指導計画表マニュアル Ver.Ⅱ

令和3年2月

長崎県立佐世保特別支援学校

目 次

- 単元別指導計画表を作成する意図・目的について・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1

- 佐世保特別支援学校のカリキュラム・マネジメントとは・・・・・・・・・・・・ P 1～2

- 単元別指導計画表、各項目の解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3～4

- 単元別指導計画表（項目説明・具体例）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5～6

- 単元別指導計画表（各部様式）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 7～10

- 参考資料1：「各教科における見方・考え方」

- 参考資料2：【卒業後の目指す姿」と、その姿に近づくための【卒業後の進路・生活を見通した必要な力】一覧表

○単元別指導計画表を作成する意図・目的について

新学習指導要領で示された「社会に開かれた教育課程」の実施及び実現をめざして、指導内容を整理し、「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れて授業改善を継続させ、育成を目指す資質・能力を着実に育成するため、単元別指導計画表を作成する。

単元別指導計画表を作成・実施することは、教育活動の質を向上させる授業改善の好循環を生み、維持させることであり、カリキュラム・マネジメントを行う上で重要な役割がある。カリキュラム・マネジメントの視点としては、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点に留意する必要がある。進めていく際には各教科等の指導に当たって、①「知識及び技能」が習得されるようにすること。②「思考力、判断力、表現力等」を育成すること。③「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。その際、各教科等の「見方・考え方」を働かせ、各教科等の学習の過程を重視して充実を図ることが求められる。単元別指導計画表を作成・運用していくことは、授業改善や個別の指導計画、年間指導計画に反映するため、まさにカリキュラム・マネジメントであると言える。

○佐世保特別支援学校のカリキュラム・マネジメントとは

(カリキュラム・マネジメント推進委員会から)

① 「よりよい（共生）社会（創り）につながる教育課程」

⇒社会と学校が目標を共有できる

＜誰もが暮らしやすく自分の役割を果たす喜びが実感できる社会創りに貢献する教育課程＞

社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るといふ目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくことが重要。

② 「豊かな人生（創り）につながる教育課程」

⇒社会（世界）に向き合い人生を切り拓くための資質・能力を育む教育課程

＜社会に向き合い自分らしい豊かな人生を送るための資質・能力を育成する教育課程＞

これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくことが重要。

③ （今と未来の）地域社会につながる教育課程

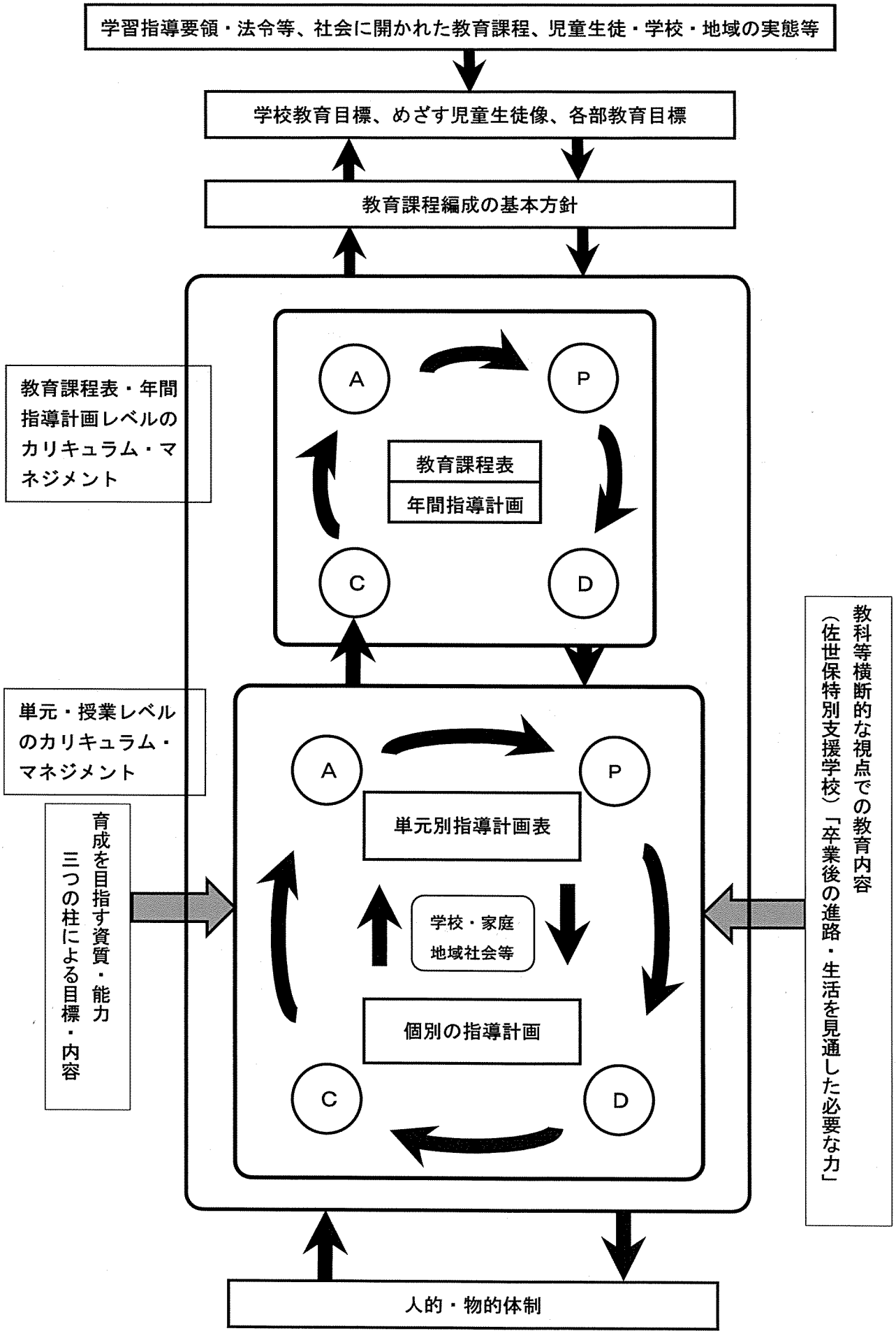
⇒地域社会（人的・物的資源等）との連携により学校教育の目標実現を目指す教育課程

＜社会とつながる教育課程（社会と直接的・間接的につながりながら上記①②を実現する教育課程）＞

教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させることが重要である。

※単元別指導計画表を作成することで、次年度に向けた授業改善、年間指導計画の改善につながる。また、個別の教育指導計画等、教育課程全体に波及し、好循環を生み出すことこそが、結果的に教育課程全体の改善につながる。（＝カリキュラム・マネジメント）

佐世保特別支援学校のカリキュラム・マネジメント（概念図 Ver. 2）



○各項目の解説

項目	解説
<p>各部段階で育てたい力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元で育つ力を「卒業後の進路・生活を見通した必要な力」一覧表の各部段階より選んで転記する。この際、児童生徒の発達年齢に即した力の段階ではなく、生活年齢に即した段階で設定するようにする。 (児童・生徒が実際の年齢に基づく育てたい力を記入する) ※「育てたい力」は、具体的な学習内容には含まず、「この単元は本校のこの力を付ける要素を含んでいる。」程度に留め、手立て等には含めないこととする。 ＜「卒業後の進路・生活を見通した必要な力」の各部門の成り立ちについて＞ ・【あたご部門】 高等部段階で卒業後に必要な育みたい力を教員で出し合い、「一般就労」「福祉的就労」「生活介護」に分類し、平成30年度の研究企画会において、教育支援部、進路指導部においてわかす部門の「卒業後の進路・生活を見通した必要な力」Ⅲ課程の一覧表を基に作成した。(小中、高の2枚構成) ・【わかす部門】 高等部卒業後に目指す姿を本校の「目指す児童生徒像」より各類型で設定。その姿に近付くために必要な力を教員・保護者・児童生徒それぞれの立場で出し合い、各部経営目標の6項目で分類し、小中高の各部段階に振り分けた。また、平成28～29年度研究において、先行研究の内容の見直しや卒業後の利用する期間の意向を踏まえ再整理した。名称を「卒業後の進路・生活を見通した必要な力」一覧表にした。(Ⅰ・Ⅱ課程、Ⅲ課程、Ⅳ課程の3枚構成)
<p>単元目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・育成すべき資質・能力の三つの柱、「知識・技能」、「思考力・判断力」、「学びに向かう力、人間性等」ごとに単元目標を設定する。各教科等の内容を参考に、相応しい文言に修正して記入する。→令和元年度までは、内容をそのまま転機していたが、令和2年度からは単元の活動内容を踏まえたより具体的な目標を書くようにする。 ・その際、どの内容から設定したのかを明確にするため、段階と記号を記入する。
<p>見方・考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の意図を説明し、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方を記入する。 ・「見方・考え方」については、添付している資料を参考に記入する。 ※児童生徒の実態に応じた段階で設定するのではなく、各部段階の「見方・考え方」の資料を基に設定する。 ・教科等を合わせた指導(生活単元学習等)については、どの教科と関連があるか検討し、各教科の視点からも記入する。
<p>題材について ○学習内容 ○学習活動(育成すべき資質・能力の三つの柱)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元とは複数の題材を系統的に組織したまとまりである。 ・題材とは学習指導の内容を構成するまとまりとして、学習指導の目標や内容を組織付けた指導の単位である。 ・指導内容とは、学習指導要領の知的障害である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の内容の段階を基に、児童生徒の知的障害の状態や経験に応じて具体的に示したものである。(特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 P65参照) ・学習内容とは、指導内容を子どもの視点に立って書き表したものである。 ・学習活動とは、主語が児童生徒となるような書き方で活動を記入する。 例えば、(児童生徒が)「教師の読み聞かせを聞く」「感想文を書く」「感想文を発表する」「(○○について)話し合う」等

	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の活動の意図を的確に捉えるため、各活動の語尾に、育成すべき資質・能力の三つの柱より記入する。(活動によっては、複数の資質・能力が該当する場合も考えられる。) 例えば、教師の読み聞かせを聞く。(知識・技能) 場面ごとの自分のせりふを言う。(思考力、判断力、表現力)等
○手立て、指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「○」は学習活動のねらいと手立てについて記入する。 ・「・」は指導上の配慮について記入する。(平成29年度作成の「自閉症スタンダード」などを参考に、障害特性を踏まえたかかわりや場の設定などを記入する。) あくまでも単元における指導計画表のため、指導案のような個別の合理的配慮(教材等の配慮、支援)については記入しない。(個別の配慮点については、「個別の指導計画」を活用する。)
○教材	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の授業者が分かりやすいように、どの教材を使ったのか具体的に記入する。教材の場所などを記入するとより分かりやすい。
単元評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から評価規準を示す。「何が身に付いたのか。」単元終了後の目指す児童生徒の姿を記入する。
次年度に向けて ○指導時数、指導時期 ○見方・考え方 ○目標、評価、学習内容、手立て ○教材 ○育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・本欄は、単元全体を振り返り、効果的であった部分や課題を明らかにし、次年度の授業改善に生かす、教師の授業反省の欄である。 ・どの項目の改善が必要なのか、各項目について(◎○△)の記号で分かりやすく評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ◎：できた。十分達成できた。 ○：概ねできた。または、概ね達成できた。 △：改善点がある。 ・○や△のように改善点がある場合、何が課題でどのように改善すればよいのかを具体的に記入する。「指導時数、指導時期」や単元そのものの見直しについては、年度内に「年間指導計画」へ反映させる。 ・「見方・考え方」については、実際に授業を実践することでその内容が適切であったかを確認する。 ・「目標、評価、学習内容、手立て」については、単元に含まれる教科内容が適切だったか、授業の課題や改善点について具体的に記入する。 ・教材について、作成した教材があれば、どのような教材なのかの資料を添付することで明らかにし、引き継ぐようにする。 ・「育てたい力」の欄には、一覧表で設定した力を育てる単元であったか。また、一覧表の他の力は育たなかったのかを検討し、記入する。
<作成する上での留意事項～全体を通して～> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の授業者が授業をする上で、見通しがもてやすいよう書き方は具体的且つ簡潔に記入する。 	

単元別指導計画表 (項目説明)

科指導計画表		単元名	【	】	指導時期	() 月 ~ () 月
単元計画	(題材名)	「	」		実施日 / / , / / , /	実施日 / / , / / , /
全 () 時間	◎					
部段階で育てたい力						
単元目標	(知・技) (思・判・表) (学・人)					
見方、考え方						
題材 ①	<p>【学習内容】「 ○学習活動 ・具体的な学習活動</p> <p>○学習活動を記入する (児童・生徒側からの視点で記入) 例:「~の物語を知ろう!」など ・具体的な学習活動を記入する 例:「~を読む、~を書く」 ・関連する「知識・技能・思考・判断・表現」学習に関わろう力人間性についても関連する項目を記入する。</p>	<p>【手立て、指導上の留意点等】○活動のねらいと手立て・配慮 ○手立ては主體的、対話的、深い学びにつながる手立てを記入する。 ※個別の手立て、配慮事項は記入しない。</p>	【教材】			
題材 ②	<p>【学習内容】「 ○学習活動 ・具体的な学習活動</p> <p>○学習活動を記入する (児童・生徒側からの視点で記入) 例:「~の物語を知ろう!」など ・具体的な学習活動を記入する 例:「~を読む、~を書く」 ・関連する「知識・技能・思考・判断・表現」学習に関わろう力人間性についても関連する項目を記入する。</p>	<p>【手立て、指導上の留意点等】○活動のねらいと手立て・配慮 ○手立ては主體的、対話的、深い学びにつながる手立てを記入する。 ※個別の手立て、配慮事項は記入しない。</p>	【教材】			
題材 ③	<p>【学習内容】「 ○学習活動 ・具体的な学習活動</p> <p>○学習活動を記入する (児童・生徒側からの視点で記入) 例:「~の物語を知ろう!」など ・具体的な学習活動を記入する 例:「~を読む、~を書く」 ・関連する「知識・技能・思考・判断・表現」学習に関わろう力人間性についても関連する項目を記入する。</p>	<p>【手立て、指導上の留意点等】○活動のねらいと手立て・配慮 ○手立ては主體的、対話的、深い学びにつながる手立てを記入する。 ※個別の手立て、配慮事項は記入しない。</p>	【教材】			
単元評価	(知識・技能)					
	(思考・判断・表現)					
	(主體的に学習に取り組む態度)					
項目	評価 (○○△)					
指導回数、指導時期						
見方・考え方						
目標、評価、学習内容、手立て						
教材、場の設定						
育てたい力						

○単元目標については学習指導要領の内容を参照し、単元目標に相応しい文章に修正して記入する。
○文言については必ず具体的な記述かず、学習指導要領の内容レベル(段階)とする。
○学習指導要領の内容から転記したのか分かるように、目標の最後に段階と記号を記入する。

この単元における「見方、考え方」を記入する。(授業の意図を説明する)

○学習活動を記入する (児童・生徒側からの視点で記入)
例:「~の物語を知ろう!」など
・具体的な学習活動を記入する
例:「~を読む、~を書く」
・関連する「知識・技能・思考・判断・表現」学習に関わろう力人間性についても関連する項目を記入する。

【手立て、指導上の留意点等】○活動のねらいと手立て・配慮
○手立ては主體的、対話的、深い学びにつながる手立てを記入する。
※個別の手立て、配慮事項は記入しない。

使用した教材を記入する。(教科書や本、プリントなど)可能であれば、プリント類は、実物をファイルにとじて保管する。教材のある場所も記入。

単元評価は評価規程を示し、計画段階で記入する。

反省は授業者、教師側の視点で反省をする。次年度の授業に生かせるように改善点も記入する。

次年度への課題

単元別指導計画表 (具体例)

国語科指導計画表		単元名	【劇をしよう】	指導時期	(10)月～(11)月
単元計画 (全15時間)		①「お話を聞こう」(2時間) 10/15,18	②「せりふを言ってみよう」(8時間) 10/23,25,29,11/1,5,7,8,12	③役になりきろう(5時間) 11/14,15,19,21,22	
中学 部段階で育てたい力	○集団における役割を理解し、協力して取り組む。(②他者との関わり方、集団への参加)	身近な大人や友達とのやり取りを通して言葉には事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(中学部1段階7-7)			
単元目標 知識・技能 思考力・判断力 ・表現力 学びに向かう力、人間性等	文章を読んてわかったことを伝えたり、感想をもったりすることができる。(中学部1段階C-1)	物語文を読んで、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像することを楽にむことができるとともに、言葉を使って自分の見聞きしたことを考えたり、様々な相手と気持ちを持ちは共有できる。(中学部1段階)			
見方・考え方	新しく出会う「たごっこ」「びつくり」などの言葉や、その言葉の表す意味やその言葉と動きの関係、 「ないた赤おに」の劇遊びを通して、場面ごとに実際に使用することで捉え、実感させ、言葉と動きの関係性を意味付けさせること。				
題材 ① 2	【学習内容】 「「ないた赤鬼」の話を聞く」 ○教師の読み聞かせを聞く。(知識・技能) ○物語の中に、「たごっこ」「びつくり」などの言葉があることを知る。(知識・技能)	【手立て、指導上の留意点等】 ○活動のねらいと手立て・配慮事項 ○登場人物や話について知るために、「笑った赤鬼」「怒った赤鬼」「泣いた赤鬼」のイラストを提示し、「泣いた赤鬼はどれかな?」と問い、登場人物をイメージさせる。 ○物語に出てくる言葉に興味や関心をもちするために、「たごっこ」「びつくり」などを抑揚を付けて読むことで言葉のリズムや面白さに気付かせる。 ・イラストなどを使用して場面ごとに読む。 ・「たごっこ」「びつくり」などの言葉を大きな文字や赤文字で提示して見やすくしておく。	【教材】 ・「ないた赤おに」の手作り大型絵本 ・様々な表情の赤鬼のイラスト ・言葉を表すイラスト ・登場人物の人物 ・登場人物の人物		
題材 ② 8	【学習内容】 「せりふを言う」 ○教師の読み聞かせを聞く。(知識・技能) ○場面ごとの自分のせりふを言う。(思考力、判断力、表現力)	【手立て、指導上の留意点等】 ○活動のねらいと手立て・配慮事項 ○前時に提示した登場人物の人物の形を用いながら、「この人物はだれ?」と尋ねたり、人形を動かして「今何をしているの?」と尋ねたりすることで、登場人物や動きを表す言葉を読み出させる。 ・登場人物のお面や人形を使い、自分のやりたい役柄を選択させる。 ○場面に出てくる新しい言葉や自分が発する言葉を知るために、大型絵本を使用し、言う言葉を確認して表示したり、言う前に生徒の前で顔写真を指さしなから、顔を置いたりして自分の配役や発する言葉に気付かせる。 ・せりふの頭に配役の顔写真を貼っておく。 ○言葉を表すイラストを見せたり、そのジェスチャーを提示することで、せりふを読んだり、教師の読み聞かせを模倣したり、言葉に合わせて動きを模倣したりする。 ・イラストを用いることで大きな声を出させる。	【教材】 ・「ないた赤おに」の手作り大型絵本 ・様々な表情の赤鬼のイラスト ・言葉を表すイラスト ・登場人物の人物とお面 ・アイク(玩具)		
題材 ③ 5	【学習内容】 「役のせりふを言う」 ○役柄やせりふを確認する。(知識・技能) ○場面ごとの自分のせりふを言う。(学びに向かう力、人間性等)	【手立て、指導上の留意点等】 ○活動のねらいと手立て・配慮事項 ○登場人物の人物の形を用いながら、「この人物はだれ?」と尋ねたり、人形を動かして「どうやって動いていたかな?」と尋ねたりすることで、登場人物や動きを表す言葉を読み出させる。 ○せりふを言うことに困った生徒がいた場合は、言葉を表すイラストを見せたり、そのジェスチャーを提示することでせりふや動きを思い出させる。	【教材】 ・「ないた赤おに」の手作り大型絵本 ・様々な表情の赤鬼のイラスト ・言葉を表すイラスト ・登場人物の人物とお面 ・アイク(玩具)		
単元評価 知識・技能 ○「たごっこ」「びつくり」などを使用する場面において、文字やイラストを見てこれらの言葉や、配役同士で向き合っており、抑揚を付けて言ったり、身体の動きや表情で表わしたりすることができたか。	項目 評価(◎△)	思考・判断・表現 ○言葉や言葉を表すイラストを見せることで、せりふを言ったり、その言葉に合った動きを思い出して表現したりすることができたか。 主体的に学習に取り組む態度 ○登場人物に関する教材を用いながら、「これは誰?」と尋ねたり、教材を動かして「どうやって動いていたかな?」と尋ねたりすることで、登場人物や動きを表す言葉を読み出したり、友達と一緒に演じることを楽しんでいくことができたか。	次年度への課題 「読むこと」の学習内容について、生徒への手立てや教材を改善する必要がある。 生徒の学び合いの場の設定としては良くなかったため、互いを意識できる場、教材に気付ける場に変更した。 本単元で十分身に付く。しかし、実際の指導では、他者を意識した取組はできていなかった。		
指導時期、指導時期 見方・考え方 目標、評価規準、学習内容、手立て 教材、場の設定 育てたい力	◎ ◎ △ △ ◎				
次年度に向けて					

科指導計画表		年	単元名	【	】	指導時期	月
単元計画 全 () 時間	題材名	「	」	小学部段階で育てたい力	:	() ()	

単元目標	知・技 思・判・表 学・人	1段階	2段階	3段階
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> すべての段階について目標が書いてあるため、対象となる段階が分かるように背景を塗りつぶす。 </div>		
見方・考え方		学習内容		
題材		手立て、指導上の留意点等		
単元評価		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
反省		項目	評価 (◎○△)	内容
		指導時数、指導時期、育てたい力		
		目標、評価		
		学習内容、手立て		
		教材、場の設定		

科指導計画表		単元名	指導時期	() 月
単元計画 全 () 時間		(題材名) 「 」		
中学 部段階で育てたい力				
単元目標	A (知・技)	<input type="radio"/>	【 : : 】	
	B (思・判・表)	<input type="radio"/>	【 : : 】	
	C (学・人)	<input type="radio"/>	【 : : 】	
見方・考え方		学習を通して、 すること。		
日付		【○学習活動】	【・手立て、配慮事項、指導上の留意点等】	【教材・教具等】
題材	A (知識・技能)	B (思考・判断・表現)	C (主体的に学習に取り組む態度)	
単元評価		次年度への課題		
項目		評価 (◎△)		
指導時数、指導時期				
目標、評価、学習内容、手立て				
教材、場の設定				
育てたい力				
次年度に向けて				

単元別指導計画表 ()

学 年 年 生 コース () グループ

単元名 () 記載者 ()

高等部段階で育てたい力			
単元目標	A (知識・技能)		
	B (思考・判断・表現)		
	C (学び・人間性)		
見方、考え方			
題 材	学習活動・活動のねらい	手立て・指導上の留意点	教材
①			
時間			
②			
時間			
③			
時間			
単元評価	A (知識・技能)		
	B (思考・判断・表現)		
	C (主体的に学習に取り組む態度)		
次年度に向けて	項目	内容	
	時数、時期、目標、評価、内容、手立て、教材、場の設定		
	生徒の変容		

単元別指導計画表 (肢体不自由教育部門)

科指導計画表		単元名		【 】		指導時期		() 月～() 月		
部段階で育てたい力 ◎										
単元目標	知・技					単元評価				
	思・判・表									
	学・人									
見方・考え方										
題材名	時数	学習内容			手立て、指導上の留意点(①主体的 ②対話的 ③深い学び につながる)			評価の観点		
								知・技	思・判・表	主体的
次年度への課題										
項目		評価 (◎○△)								
指導時数										
目標・評価										
学習内容										
手立て										
次年度に向けて										

各教科における見方・考え方

教科等	見方・考え方
国語 「言葉による見方・考え方」	【小学部・中学部・高等部】 「言葉による見方・考え方を働かせ」とは、児童（生徒）が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること
社会 「社会的な見方・考え方」	【中学部】 「社会的な見方・考え方を働かせ」ことは、視点や方法（考え方）を用いて、調べ、考え、表現して、理解したり、学んだことを社会生活に生かそうとしたりすることなど 【高等部】 中学部社会科、高等部社会科において、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の「視点や方法（考え方）」
算数 数学 「数学的な見方・考え方」	【小学部・中学部・高等部】 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、総合的・発展的に考えること
理科 「理科の見方・考え方」	【中学部・高等部】 〔見方〕 「生命」を柱とした区分 主として多様性と共通性の視点で捉えること 「地球・自然」を柱とした区分 主として時間的・空間的な視点で捉えること 「物質・エネルギー」を柱とした区分 主として質的・実体的な視点で捉えたり、量的・関係的な視点で捉えたりすること 〔考え方〕 生徒が問題解決の過程の中で用いる、比較、関係付け、条件制御、多面的に考えることなど

<p>生活</p> <p>「生活に関わる見方・考え方」</p>	<p>【小学部】</p> <p>「生活に関わる見方・考え方を生かし」とは、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事</p>
<p>音楽</p> <p>「音楽的な見方・考え方」</p>	<p>【小学部・中学部・高等部】</p> <p>音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること</p>
<p>図画工作 美術</p> <p>「造形的な見方・考え方」</p>	<p>【小学部】</p> <p>感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと</p> <p>【中学部・高等部】</p> <p>感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと</p>
<p>体育 保健体育</p> <p>「体育の見方・考え方」</p>	<p>【小学部・中学部・高等部】</p> <p>運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自分の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること</p>
<p>体育 保健体育</p> <p>「保健の見方・考え方」</p>	<p>【小・中学部・高等部】</p> <p>個人（生活）及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること</p>
<p>職業・家庭「職業に係る見方・考え方」</p> <p>「生活の営みに係る見方・考え方」</p>	<p>〔職業分野〕</p> <p>【中学部・高等部】</p> <p>「職業に係る見方・考え方を働かせ」とは、職業に係る事象を、将来の生き方等の視点で捉え、よりよい職業生活や社会生活を営むための工夫を行うこと</p> <p>〔家庭分野〕</p> <p>【中学部】</p> <p>「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ」とは、家庭分野が対象としている家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る事象を、健全で豊かな家庭生活を営む視点で捉え、生涯にわたって自立し共に生きる生活を創造するために、よりよい生活を工夫すること</p> <p>【高等部】</p> <p>「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ」とは、家庭科が学習対象としている家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に健全で豊かな家庭生活を営む視点で捉え、生涯にわたって自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を工夫すること</p>

<p>外国語活動 外国語</p> <p>「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」</p>	<p>【小学部】</p> <p>外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること</p> <p>【中学部・高等部】</p> <p>外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること</p>
<p>情報</p> <p>「情報に関する科学的な見方・考え方」</p>	<p>【高等部】</p> <p>「情報に関する科学的な見方・考え方」とは、事象を、情報とその結び付きとして捉え、情報技術の適切かつ効果的な活用（プログラミングやモデル化・シミュレーションを行ったり情報デザインを適用したりすること等）により、新たな情報に再構成すること</p>
<p>特別の教科道徳</p> <p>「道徳科における見方・考え方」</p> <p>※小学校又は中学校に準ずる</p>	<p>【小学部・中学部・高等部】</p> <p>様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えること</p> <p>＜根拠：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について〔答申〕、小〔中〕学校学習指導要領 解説 特別の教科 道徳編＞</p>
<p>総合的な学習の時間「探究的な見方・考え方」</p> <p>※中学校に準ずる</p>	<p>【中学部】</p> <p>各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間の特徴に応じた見方・考え方のこと</p> <p>＜根拠：中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編＞</p>
<p>総合的な探求の時間「探究的な見方・考え方」</p> <p>※高等学校に準ずる</p>	<p>【高等部】</p> <p>各教科等における見方・考え方を総合的・統一的に活用して、広範で複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の在り方生き方を問い続けるという総合的な探究の時間の特徴に応じた見方・考え方のこと</p> <p>＜根拠：高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編＞</p>
<p>特別活動「集団や社会の形成者としての見方・考え方」</p> <p>※小学校、中学校又は高等学校に準ずる</p>	<p>【小学部・中学部・高等部】</p> <p>各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結びつけること</p> <p>＜根拠：小〔中〕学校学習指導要領解説 特別活動編、高等学校学習指導要領解説 特別活動編＞</p>

知的障害教育部門における【卒業後の目指す姿】と、その姿に近づくための【卒業後の進路・生活を見通した必要な力】一覧表

本校の目指す姿		
知的障害教育部門の目指す姿		
A 健康でたくましく生きぬく児童生徒	B 思いやりのある心豊かな児童生徒	C 自立と社会参加を目指し、努力を続ける児童生徒
<p>小 楽しく身体を動かして、運動する喜びを味わうとともに、心身の健康的な生活習慣（規則正しい生活）を身に付ける。</p> <p>中 いろいろな身体を動かす経験をし、運動機能や体力の向上を目指すとともに自分の健康・安全への関心を高める中で、心身の健康的な生活習慣を身に付ける。</p> <p>高 健康安全への関心を高めるとともに、進んで運動に取り組み、自ら体力向上や健康管理に努める態度を身につける中で、心身の健康的な生活習慣を確立する。</p>	<p>小 周りの人やものへの関心を高め、豊かにかかわる力を身に付ける。</p> <p>中 集団生活に必要な基本的な決まりを守り、相手を思いやる態度を養うとともに、仲間と協力して活動する力を身に付ける。</p> <p>高 自己を尊重する態度を養うとともに、集団生活のルールを守り、周りの人と協調・協力をしながら生活する態度を身に付ける。</p>	<p>小 自立と社会参加を目指すことができるだけ自分でしようとする態度を養うとともに、身の回りのことを自分でしようとする態度を身に付ける。また、遊びや学習、生活体験を積み重ね、興味関心を広げるとともに、集団生活での簡単な決まりを守る態度を身に付ける。</p> <p>中 できることは自分でやる態度を培い、日常生活に必要な身の処置能力の向上や基本的な生活習慣の定着を目指す。また、働くことや自立することの大切さを学ぶことで、地域や社会の中で心豊かな生活をしようとする態度を身に付ける。</p> <p>高 基本的な生活習慣の確立を目指し、今できることを日常生活の様々な場面でもできるようにし、自らの生活をより豊かにしようとする態度を身に付ける。また、働くことや自立するための知識や技能を学ぶとともに、個々の課題に主体的に取り組み自ら考え判断する力を培い、課題解決に向けて努力する態度を身に付ける。</p>

必要な力の項目	小学部段階で必要な力	中学部段階で必要な力
<p>①健康に関すること・身体を動かすこと</p> <p>ア心身の健康</p> <p>イ運動・体力</p> <p>②他者とのかわり</p> <p>ア状況に応じた挨拶、返事、言葉遣い</p> <p>イ意思の伝達</p> <p>ウ集団への参加</p> <p>エ他者理解</p> <p>③基本的な生活習慣</p> <p>ア食事</p> <p>イ排せつ</p> <p>ウ清潔</p> <p>エ更衣</p> <p>オ身の回りの整理</p>	<p>ア体調不良や不快感（暑さ、寒さ、痛み、かゆみ等）を周囲の人に伝える。</p> <p>イ簡単な遊びや運動が行える体力がある。</p> <p>ア丁寧な言葉を使って話す。</p> <p>アその場にふさわしい行動をとる。</p> <p>イ日常生活の中で、身近な人に自分の気持ちを伝える。</p> <p>ウ周りの人と一緒に仲良く活動する。</p> <p>エ自分と友達の良いところを気付く。</p> <p>エ自分から挨拶をしたり、友達を遊びに誘ったりする。</p> <p>自分合った方法で、日常生活の動作ができる。</p> <p>ア食事（準備、挨拶、食具の操作、食事のメニュー、食事内容、後片付け、配膳、感謝など）</p> <p>イ排せつ（尿意、便意の意思表示、トイレの開閉、便器の使い方（小便器・洋式便器）、紙を取って拭く、衣服の上げ下ろし、水を流す、手洗いなど）</p> <p>ウ清潔（手洗いの、洗面、うがい、歯みがき、手・口を拭く、髪を切る、髪剃り、衣服の交換など）</p> <p>エ更衣（靴・衣服の選択・着脱、袖口・襟元・裾を整える、衣服の調節、TPOに応じた服装など）</p> <p>オ身の回りの整理（荷物の整理、提出、教室内外の清掃、ロッカーの整理整頓など）</p>	<p>ア自分から健康を意識して対処する。</p> <p>イ一定量の運動や作業が行える体力がある。</p> <p>ア簡単な敬語を使って話す。</p> <p>ア時と場に応じて適切な態度で対応する。</p> <p>いろいろな場面において、自分にとって必要な要求や意思を伝える。</p> <p>ウ集団における役割を理解し協力して取り組む。</p> <p>エ自分と友達の長所や短所が分かり、互いに認め合う。</p> <p>エ友達が困っていたら手助けをしたり、頑張っている友達を励ましたりする。</p> <p>ア自分の障害やその特性について知っている。</p> <p>イ周りの人に相談したり依頼したりする。</p> <p>ウ継続して物事に取り組む。</p> <p>ウ未経験なことや苦手なことに挑戦し、やり遂げようと努力する。</p> <p>ア労働と報酬の関係を知る。</p> <p>ア製品を買ってもらった喜びを感じる。</p> <p>イ社会体験を通し、様々な職業に関心をもち、いろいろな進路があることを知る。</p> <p>ウきまりや指示を理解して行動し、分らないときは聞く。</p> <p>エ決められた時間、集中して取り組む。</p> <p>オ興味のある活動、趣味などを見つけ、一人又は数人で楽しむ。</p>
<p>④課題解決</p> <p>ア自己理解</p> <p>イ問題解決力</p> <p>ウ課題に向かう態度</p> <p>⑤基礎基本の定着、教科学習</p> <p>ア学習に向かう態度</p> <p>イ基礎学力の定着</p> <p>⑥進路</p> <p>ア働くことの意味</p> <p>イ進路選択・職業理解</p> <p>ウ社会のルール理解</p> <p>エ作業や活動への集中</p> <p>オ趣味や余暇の過ごし方</p>	<p>ア自分の苦手・得意なところを知っている。</p> <p>イ家族や教師に依頼する。</p> <p>ウいろいろなことに挑戦し、前向きに取り組む。</p> <p>ウ未経験なことや苦手なことに挑戦する。</p> <p>ア自分の学習課題が分かり、取り組む。</p> <p>イ生活の中で活用できる読み書き計算をする。</p> <p>イ生活の中で活用できる技能を身に付ける。</p> <p>ア係活動や手伝い等、自分の役割を果たし、その喜びを感じる。</p>	<p>ア労働と報酬の関係を知る。</p> <p>ア製品を買ってもらった喜びを感じる。</p> <p>イ社会体験を通し、様々な職業に関心をもち、いろいろな進路があることを知る。</p> <p>ウきまりや指示を理解して行動し、分らないときは聞く。</p> <p>エ決められた時間、集中して取り組む。</p> <p>オ興味のある活動、趣味などを見つけ、一人又は数人で楽しむ。</p>

Ⅰ・Ⅱ課程における【卒業後の目指す姿】と、その姿に近づくための【卒業後の進路・生活を見通した必要な力】一覧表

必要な力の項目	各段階	小学段階で必要な力	中学段階で必要な力	高等学校で必要な力
①健康に関すること・身体を動かすこと ア 心身の健康	ア 健康に関すること・身体を動かすこと ア 心身の健康	ア 健康に関すること・身体を動かすこと ア 心身の健康	ア 健康に関すること・身体を動かすこと ア 心身の健康	ア 健康に関すること・身体を動かすこと ア 心身の健康
②他者とのかわり ア 状況に応じた挨拶、言葉遣い、態度	ア 他者とのかわり ア 状況に応じた挨拶、言葉遣い、態度	ア 他者とのかわり ア 状況に応じた挨拶、言葉遣い、態度	ア 他者とのかわり ア 状況に応じた挨拶、言葉遣い、態度	ア 他者とのかわり ア 状況に応じた挨拶、言葉遣い、態度
③意思の伝達 ア 意思の伝達 ウ 集団への参加	ア 意思の伝達 ウ 集団への参加	ア 意思の伝達 ウ 集団への参加	ア 意思の伝達 ウ 集団への参加	ア 意思の伝達 ウ 集団への参加
④基礎的生活習慣 ア 食生活 イ 排せつ ウ 清潔 エ 更衣 オ 身の回りの整理	ア 基礎的生活習慣 ア 食生活 イ 排せつ ウ 清潔 エ 更衣 オ 身の回りの整理	ア 基礎的生活習慣 ア 食生活 イ 排せつ ウ 清潔 エ 更衣 オ 身の回りの整理	ア 基礎的生活習慣 ア 食生活 イ 排せつ ウ 清潔 エ 更衣 オ 身の回りの整理	ア 基礎的生活習慣 ア 食生活 イ 排せつ ウ 清潔 エ 更衣 オ 身の回りの整理
⑤基礎基本の定着、教科学習 ア 学習習慣の確立 イ 基礎的学力や技能の定着	ア 基礎基本の定着、教科学習 ア 学習習慣の確立 イ 基礎的学力や技能の定着	ア 基礎基本の定着、教科学習 ア 学習習慣の確立 イ 基礎的学力や技能の定着	ア 基礎基本の定着、教科学習 ア 学習習慣の確立 イ 基礎的学力や技能の定着	ア 基礎基本の定着、教科学習 ア 学習習慣の確立 イ 基礎的学力や技能の定着
⑥進路 ア 働くことの意味 イ 職業理解・進路選択 ウ 就労につながる態度 エ 将来設計 オ 生きがい(趣味)	⑥進路 ア 働くことの意味 イ 職業理解・進路選択 ウ 就労につながる態度 エ 将来設計 オ 生きがい(趣味)	⑥進路 ア 働くことの意味 イ 職業理解・進路選択 ウ 就労につながる態度 エ 将来設計 オ 生きがい(趣味)	⑥進路 ア 働くことの意味 イ 職業理解・進路選択 ウ 就労につながる態度 エ 将来設計 オ 生きがい(趣味)	⑥進路 ア 働くことの意味 イ 職業理解・進路選択 ウ 就労につながる態度 エ 将来設計 オ 生きがい(趣味)

本校の目指す児童生徒像
Ⅰ・Ⅱ課程の目指す姿
A 健康でたくましく、生きぬく児童生徒 1 自分自身の生活環境を把握し、障害を理解して、心と体が健やかで安定した生活を送ることができている。 2 自分からすすんで身体を動かす活動に参加し、身体機能や体力を維持。向上して生活することができている。 3 社会の変化に対応できる強い心をもち、たくましく生きぬく力を身に付けている。
B 思いやりのある心豊かな児童生徒 1 お互いの気持ちを尊重した言動ができ、様々な年代や立場の人たちと協力して生活できている。 2 生きがいとなるものを見つけ、生活を築きむくことができている。
C 自立し社会に参加・貢献しようとする児童生徒 1 家族の「真」社会の「真」として、自分の存在価値を見出し、喜びを感じながら生活している。 2 自分のできることで、できないことを理解し、必要な支援を依頼して、自立した生活を送ることができている。 3 向上心を持ち、目標に向かって努力を続けている。 4 所属意識をもち、社会のルールや自分の行動に責任をもって行動することができている。

IV課程における【卒業後の目指す姿】と、その姿に近づくための【卒業後の進路・生活を見通した必要な力】一覧表

必要な力の項目	各段階	小学部段階で必要な力	中学部段階で必要な力	高等部段階で必要な力
①健康に関すること・身体を動かすこと ア心身の健康	ア睡眠、食事、排せつといった生活リズムに慣れる。 ア教師の支援を受けながら、良好な呼吸状態や、体温を保つ。 ア体調の好不調を何らかの形で表現することができる。 ア様々な方法で身体を動かし、体力をつける。 イ自分で、もしくは支援を受けて、目的をもって姿勢を変えたり保持したりすることを身に付ける。 イ自分で、もしくは支援を受けて、目的をもって移動することを身に付ける。	ア睡眠、食事、排せつといった生活のリズムを身に付ける。 ア安定した健康状態を保つ。	ア睡眠、食事、排せつといった生活のリズムを身に付ける。 ア安定した健康状態を保つ。	ア様々な方法で身体を動かし体力を維持する。
②人やものとのかわり ア環境の変化への対応 イ意思の表出 ウかわりへの受容	イ特定の人や身近な教師の支援を受け入れて、一定量食べることができる。 イ排せつに気付いて表情、発声、身ぶりで表すことができる。 ウ支援を受け入れて、自分なりに応じながら身の回りのことができる。	イ環境の変化を受け入れる。 イ友達やいろいろな教師に対して、自分の意思や気持ちを表情や発声、身ぶりなどで表すことができる。 ウ友達やいろいろな教師の働き掛けに対して、イントネーションや身ぶり、表情の変化などを受けることができる。 イグループでの活動に参加する。 イグループでの生活を送ることができる。	イ環境の変化に対応できる。 イいろいろな人に対して自分の意思や気持ちを表情や発声、身ぶりなどで表すことができる。 ウいろいろな人の働き掛けに対して、イントネーションや身ぶり、表情の変化などを受けることができる。 イグループでの生活を送ることができる。	
③基本的な生活習慣 ア食事 イ排せつ ウ身の回りのこと	イ特定の人や身近な教師に、要求を伝えることができる。 イ自分でしたいことを、できるだけ自分でやろうとする。 ウ視線や発声、手の動きなどでやりたいことを二つの物から選ぶことができる。 ア声掛けや姿勢変換、場所移動などから、学習の始まりと終わりに気付くことができる。 イいろいろな学習を経験し、受け入れることができる。	ア友達やいろいろな教師に、要求を伝えることができる。 ウ視線や発声、手の動きなどでやりたいことをいくつかの選択肢から選ぶことができる。 ア声掛けや姿勢変換、場所移動などから、次の学習に気付く、期待することができる。 イ学習に関心をもって取り組むことができる。	アいろいろな人と自分のできる方法で食事ができる。 イ排せつの意思を知らせることができる。 アいろいろな人に、要求を伝えることができる。	
④課題解決力 ア要求 イ自発的な行動 ウ選択	ア特定の場面で、力を発揮することができる。 イ地域のの人々のふれ合い ウ趣味と遊び	アいろいろな場面で、力を発揮することができる。 イ見守りや支援を受けながら、地域のひととふれ合うことに慣れる。 ウ興味のあることや好きなことを増やし、楽しみをもって生活する。	イ地域のひとなど、いろいろな人とふれ合うことを楽しむ。	
⑤進路 ア力の発揮 イ地域のの人々のふれ合い ウ趣味と遊び	ア特定の場面で、力を発揮することができる。 イ地域のの人々のふれ合い ウ趣味と遊び	アいろいろな場面で、力を発揮することができる。 イ見守りや支援を受けながら、地域のひととふれ合うことに慣れる。 ウ興味のあることや好きなことを増やし、楽しみをもって生活する。	イ地域のひとなど、いろいろな人とふれ合うことを楽しむ。	

本校の目指す児童生徒像
IV課程の目指す姿
A 健康でたくましく、生きぬく児童生徒 1 食事、排泄、睡眠などの生活リズムが整い、健康に過ごしている。 2 毎日、身近な人と身体を動かす機会をもつことで、体力を維持して生活している。
B 思いやりのある心豊かな児童生徒 1 家族や周囲の人とのかわりを受け入れ、いろいろな方法で自分の気持ちを伝えていく。 2 興味のあることや好きなことなどがあり、楽しみをもって生活している。 C 自立し社会に参加・貢献しようとする児童生徒 1 いろいろな人と触れ合いながら、集団生活を送ったり、地域の活動などに参加したりしている。

Ⅲ課程における【卒業後の目指す姿】と、その姿に近づいたための【卒業後の進路・生活を見通した必要能力】一覧表

必要能力の項目	各阶段階	小学阶段階で必要な能力	中学阶段階で必要な能力	高等阶段階で必要な能力
①健康に関すること・身体を動かすこと ア心身の健康 イ姿勢と運動・動作	ア体調不良や不快感（暑さ、寒さ、痛み、かゆみ等）を周囲の人に伝える。 イ姿勢と運動・動作（座位、立位、歩行、姿勢変換、手指操作）の基本的技能を高める。 イ姿勢と運動・動作（座位、立位、歩行、姿勢変換、手指操作）の補助的手段を活用する。 イ身体的機能の制限を補う自らに適した技能を身に付ける。	ア自分から健康を意識して対処できる。	ア自分から健康を意識して対処できる。	ア常に自分から健康を意識して対処できる。
		ア丁寧な言葉を使って話すことができる。 アその場にふさわしい行動をとることができる。 イ日常生活の中で、身近な人に自分の気持ちを伝えることができる。 イ周りの人と一緒に仲良く活動できる。 エ自分や友達の良いところに気付く。 エ自分から挨拶をしたり、友達を遊びに誘ったりする。	ア簡単な敬語を使って話すことができる。 ア時と場に応じて適切な態度で対応する。 イいろいろな場面において、自分にとって必要な要求や意思を伝えることができる。 ウ集団における役割を理解し協力して取り組む。 エ自分と友達の長所や短所が分かり、互いに認め合う。 エ友達が困っていたら手助けをしたり、頑張っている友達を励ましたりする。	ア相手や状況に応じた言葉遣いができる。 ア自己の立場をわきまえて適切な態度で対応する。 イいろいろな場面において、必要な要求や意思を適切に伝えることができる。 ウ集団（チーム）の一員として役割を最後までやり遂げる。 エ相手の立場に立って物事を考え行動する。
②他者とのかわり ア状況に応じた挨拶、返事、言葉遣い イ意思の伝達 ウ集団への参加 エ他者理解	ア丁寧な言葉を使って話すことができる。 アその場にふさわしい行動をとることができる。 イ日常生活の中で、身近な人に自分の気持ちを伝えることができる。 イ周りの人と一緒に仲良く活動できる。 エ自分や友達の良いところに気付く。 エ自分から挨拶をしたり、友達を遊びに誘ったりする。	ア簡単な敬語を使って話すことができる。 ア時と場に応じて適切な態度で対応する。 イいろいろな場面において、自分にとって必要な要求や意思を伝えることができる。 ウ集団における役割を理解し協力して取り組む。 エ自分と友達の長所や短所が分かり、互いに認め合う。 エ友達が困っていたら手助けをしたり、頑張っている友達を励ましたりする。	ア相手や状況に応じた言葉遣いができる。 ア自己の立場をわきまえて適切な態度で対応する。 イいろいろな場面において、必要な要求や意思を適切に伝えることができる。 ウ集団（チーム）の一員として役割を最後までやり遂げる。 エ相手の立場に立って物事を考え行動する。	
③基本的な生活習慣 ア食事 イ排せつ ウ清潔 エ更衣 オ身の回りの整理	ア自分の苦手・得意なところを知っている。 イ家族や教師に依頼する。 ウいろいろなことに挑戦し、前向きに取り組む。 ウ自分の生活に見通しをもつ。（一日、一週間） ア自分の学習課題が分かり、取り組むことができる。 イ生活の中で活用できる読み書き計算ができる。 イ生活の中で活用できる技能を身に付けることができる。	ア自分の障害やその特性について知っている。 イ周りの人に相談したり依頼したりする。 ウ継続して物事に取り組む。 ウ自分の生活に見通しをもち、自分が必要と分かる。	イ状況に合った解決手段（人、福祉機関）を知り、困った時に相談したり依頼したりする。 ウ自分がすべきことを理解し、継続して取り組む。 ウ自分の生活に見通しをもち、計画的に行動する。	
④課題解決力 ア自己理解 イ問題解決力 ウ課題に向かう態度	ア自分の苦手・得意なところを知っている。 イ家族や教師に依頼する。 ウいろいろなことに挑戦し、前向きに取り組む。 ウ自分の生活に見通しをもつ。（一日、一週間） ア自分の学習課題が分かり、取り組むことができる。 イ生活の中で活用できる読み書き計算ができる。 イ生活の中で活用できる技能を身に付けることができる。	ア自分の障害やその特性について知っている。 イ周りの人に相談したり依頼したりする。 ウ継続して物事に取り組む。 ウ自分の生活に見通しをもち、自分が必要と分かる。	イ状況に合った解決手段（人、福祉機関）を知り、困った時に相談したり依頼したりする。 ウ自分がすべきことを理解し、継続して取り組む。 ウ自分の生活に見通しをもち、計画的に行動する。	
⑤基礎基本の定着、教科学習 ア学習に向かう態度 イ基礎学力の定着	ア自分の学習課題が分かり、取り組むことができる。 イ生活の中で活用できる読み書き計算ができる。 イ生活の中で活用できる技能を身に付けることができる。			
⑥進路 ア働くことの意味 イ進路選択・職業理解 ウ社会のルール エ社会のルールへの理解 オ趣味や余暇の過ごし方	ア係活動や手伝い等、自分の役割を果たし、その喜びを感じる。 イ学校や家庭以外の生活の場があることを知り、慣れる。 イいろいろな仕事があることに気付く。 ウ学校のきまりや身近な人の指示を守る。 エ作業や活動に集中して取り組む。 オ休憩時間や休日に、自分の好きなことをして過ごす。	ア労働と報酬の関係を知る。 ア製品を買ってもらった喜びを感じる。 イ社会体験を通し、様々な職業に関心をもち、いろいろな進路があることを知る。 ウきまりや指示を理解して行動し、分からないときは聞くことができる。 エ決められた時間、集中して取り組む。 オ興味のある活動、趣味などを見つける。	ア働くことの意味（報酬と社会貢献）を知り、その喜びを感じる。 イ社会体験を通し、様々な職業に関心をもち、自己の適性に合った適切な進路を選択する。（福祉的就労、生活介護、福祉サービス） ウ社会のルールやマナーを理解し、行動する。 エ決められた時間、主体的に集中して取り組む。 オ趣味を見つけ、余暇や休日を有効に過ごす。	

本校の目指す児童生徒像
Ⅲ課程の目指す姿
A 健康でたくましく、生きぬく児童生徒
1 食事、排泄、着替えなどの生活に必要な習慣を身に付け、規則正しい生活をしている。
2 すすんで身体を動かす活動に参加し、身体機能や体力を維持して生活している。
B 思いやりのある心豊かな児童生徒
1 自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちや立場を考えたりして、周りの人たちと協力して生活している。
2 興味のあることや好きなことを見つけたら、自ら楽しく生活している。
C 自立し社会に参加・貢献しようとする努力を続ける児童生徒
1 働く喜びや作業や活動に参加する楽しさを感じながら生活している。
2 夢や目標をもって、できることを生かして生活している。